

鎌倉街道上道を歩く 第1回

＜西武新宿線新所沢駅～西武国分寺線小川駅＞

距離約 9km

1. 日時 2015年1月29日(木)
雨天の場合は 2月6日(金)
2. 集合場所 新所沢駅 改札を出た所
3. 出発時間 9時00分
4. 昼食 11:30 ガスト東村山予定



寿和婦貴は、すわぶき（咳）からきている名です。

峰の坂共同墓地：所沢で一番古いであろう三上家の墓(慶長4年)があります。慶長八年(1603年・三上山城守が所沢村を開墾した旧蹟柱、俳人、齋藤俳小星の墓と句碑があります。

枯寂裡に活を点じて石落^{つわ}咲けり（亡くなる前日の句）

齋藤俳小星：明治16年所沢生れ。高浜虚子に師事し、同人となる。農家で米屋のため、農事に関する秀句が多いことから「農俳人」、「土の俳人」と称された。

⑥ **神明社**：江戸期以前は鎌倉街道に面したこちら側が正面でした。参道のケヤキは市内で一番の幹回り。その向いが武蔵屋で所沢団子の名店です。ところ会の懇親会で配った団子ですね。

⑦ **新光寺**：馬の町の観音様、あっちっちいの新光寺の民話で知られます。源頼朝が那須野へ鷹狩りに行く途中にここで昼食をとった折りに、その時仮小屋の地を寺に寄進したといわれています。また、新田義貞が鎌倉攻めに向かう途中この寺で戦勝祈願をし、戦いに勝って帰路に立ち寄り、黒塗りの乗鞍を奉納すると共に、失っていた寺領を回復したと伝えられます。

航空殉難供養塔：昭和2年新光寺内の境内に墜落し死亡した正志大尉、伊藤武夫中尉の供養塔。

絵馬：本堂の裏に観音さまを礼拝する民衆の様子が描かれている大きな絵馬が掲げられています。

⑧ **野老山實蔵院**：開基は慶長二年（1597年）であると伝えられているが、戦争中供出された釣り鐘には、1351年新田義興によって開基されたとの銘があつたと言われています。

墓地には三ヶ島葎子（本名倉方よし）の墓があります。

⑨ **長久寺**：藤沢の遊行寺（7日目に行く予定）を総本山とする時宗のお寺です。時宗は鎌倉時代に一遍上人が開いた念仏の宗派です。長久寺の開山は玖阿上人といい、現在東村山の徳蔵寺にある「元弘の板碑」を建てた人と云われています。

本尊の**金銅造阿弥陀三尊立像**は見ることはできませんが、**廻国供養塔、旗本中根伝七郎正重の墓**(いずれも所沢市指定文化財)、おしゃぶき様等があります。

⑩ **吉原の庚申**:道の又にある文字塔ですが台には三猿が彫ってあります。文政元年(1818年)に建てられた。

⑪ **公事道**(くうじ道):久米川の公事所に通じていたという道です。公事所とは税務署や裁判所を兼ねた役所だったようです。

二瀬橋そばの柳瀬川架橋は長さが十分でなく、増水時に洪水を引き起こす原因になると武蔵野鉄道建設時には激しい反対運動原因となったところです。

⑫ **梅岩寺**:山門の左右にあるケヤキ(樹齢700年、幹周7.1m、都天然記念物)、カヤ(樹齢600年、市天然記念物)が見ものです。市内で現存する最も古い庚申塔や、四国霊場巡りと同じ功德が得られるという新四国石仏など、文化財も多いです。

⑬ **徳蔵寺**:**元弘の板碑**(国指定重要文化財)があります。元は八国山中腹の永春庵にあった物だが、庵と共に、徳蔵寺に移されています。この板碑は長久寺を開基した久阿弥陀仏という勧進聖によって新田義貞の鎌倉攻めの際に討死した飽間一族の供養のため建てられたものです。

新田義貞の鎌倉攻めは太平記に描かれていますが、その内容の信憑性に疑問が抱かれていました(5月8日に僅か150騎で出陣した新田義貞は5月10日入間川では20万7千余騎になったと書かれている)。しかしこの板碑に書かれている日付の15日は、太平記で分倍河原の合戦が行われたと書かれた日と一致することから太平記に対する歴史資料としての評価が変わったため国指定の重要文化財となっています

⑭ **立川家**:立派な長屋門があります。日蓮上人が佐渡に配流途上に、宿泊したところです。文永8年10月10日に久米川宿に泊ったという記録があり、立川家では毎年10月10日にお会

式を行なっていたそうです。

鎌倉街道上道は新田義貞が進撃した道であると同時に日蓮上人が流刑地の佐渡へ向かう道でもありました。

- ⑮ **白山神社**：イザナギノミコトを祀っています。境内には石造り丸彫坐像の牛頭天王（ごずてんのう）像があり東村山市の文化財に指定されています。
- ⑯ 「東村山市指定蹟跡**鎌倉古道趾**」という木造の碑があります。
- ⑰ **境塚**：江戸時代中頃、このあたりは広い秣（まぐさ）場であったが、幕府の新田開発により、入会地の開墾をめぐって領主と農民の対立が起こり、境を示すために村々には境塚が作られたという。その内の一つ。現在は平和の女神像がたてられている。
- ⑱ **空堀川**：下安松の清瀬橋付近で柳瀬川に合流します。
- ⑲ **八坂神社**：祭神は素盞鳴尊（牛頭天王）。旧別当寺であった正福寺の創建とほぼ同時期に創建したものと考えられ、江戸時代までは牛頭天王社と呼称し、野口の天王さまと称されて大いに賑わいます。明治2年に八坂神社と改称。

- ⑳ **九道の辻**：江戸道・引股道・宮寺道・秩父道・御窪道・清戸道・奥州街道・大山街道・鎌倉街道の九本の道がこの地に分岐していたことから、九道の辻の名がついた。



南北に鎌倉道－奥州道、東西に江戸道－秩父道、野火止用水に沿って中神へ向う大山道－清戸・引股道、それに西北の方宮寺・飯能へ向う道と東南・西南へ向う野道があった。これを御窪道(字窪への道)と呼んだ。これが東南方柳窪への道か西南方

坂窪への道か、このあたりのことは不明であるとのこと。

図にはそのように書いたが、北西方向に僅かに残る道は小手指道につながっており入間へと続くのでこれが秩父道ではないだろうか。また、図にある秩父道は現在の狭山湖あたりを突っ切って宮寺に続く宮寺道ではないかと考える。

- ⑳ **野火止用水**：知恵伊豆と呼ばれた**老中松平伊豆守信綱**^{*}が玉川上水開削の功績により、幕府から玉川上水の分水の許可を得て作ったものです。東大和市駅のあたりから分水して新座の野火止まで引かれています。伊豆殿堀とも言われる。

※三富開発の柳沢吉保の前の川越藩主

迷いの桜：九道の辻に迷いの桜との呼び名で親しまれた桜がありました。新田義貞が鎌倉攻めの際に九道の辻にさしかかり、どれが鎌倉への道であるのか迷ったので、一本の桜を植え道標としたのがその名の起こりと云われています。

~~~~~

「九道の辻」を抜けると鎌倉街道は府中街道を離れてブリヂストンの工場内に入ります。ブリヂストンタイヤ東京工場は昭和 35 年建設で敷地面積は 56 万㎡です。

鎌倉街道とは少し離れますが、このままもう少し府中街道を進み、小川駅まで行って第 1 回目の終わりです。